

平成 30 年度 アイヌ文化関係観光団体連携強化対策事業
(調査分析業務)

- ① 先進事例の調査
- ② 伝承地域の調査

報告書

平成 31 年 1 月

目次

1. 先進事例調査	1
(1) 目的	1
(2) 先進事例の選定	1
(3) 調査項目の設定と調査方法	2
(4) 調査結果	3
1). サーミ (フィンランド)	3
2). ファーストネーション・イヌイット・メティス (カナダ)	8
3). マオリ (ニュージーランド)	12
4). ハワイ先住民族 (アメリカ合衆国)	17
5). 台湾原住民 (台湾)	22
6). 琉球王国 (沖縄)	26
7). その他国内事例 (日本)	30
(5) 先進事例まとめ	33
2. 伝承地域調査	36
(1) 目的	36
(2) 調査対象地の選定と調査内容	36
(3) 対象とした伝承地域の状況	39
(4) 伝承地域の状況のまとめ	107
3. 広域連携と今後の展開方針	108
(1) 伝承地域の評価	108
(2) 広域連携、周遊促進のイメージ	112
(3) アイヌ文化観光で想定するターゲット	118
4. 伝承拠点地域の展開方向のイメージ (ロードマップイメージ)	119

1. 先進事例調査

(1) 目的

海外の先住民族伝承活動や観光客の受け入れに関する「先進的な取り組みを行っている地域の事例」、また国内では「歴史文化をテーマとする博物館や公園の事例」を調査し整理した。

(2) 先進事例の選定

先進事例は、以下の4項目を選定基準として調査対象地域を決定した。海外事例は5事例、国内事例は2事例の情報を収集した。

- ①地域の先住民族もしくは歴史文化を展示する施設として多数の入場実績がある。
- ②北海道の文化圏に近い北方民族に関連した施設・民族である。
- ③北海道と連携し、先住民族を活用した観光振興事業を実施した実績がある。
- ④先住民族だけではなく、歴史文化に係る多様なコンテンツを活用した旅行商品や広域的な連携により観光振興事業を実施している。

表 1-1 事例調査対象

調査対象地域	調査対象 WEB サイト	区分	選定理由
①サーミ (フィンランド)	・フィンランド政府観光局 ・北ラップランド地方イナリ・サーリーセルカ	観光関連組織	・北方圏先住民族 ・民族文化の保護と観光振興を両立した好例
	・サーミ博物館(SIIIDA) ・サーミ文化センター	施設	
②ファーストネーション・イヌイット・メティス (カナダ)	・カナダ政府観光局 ・カナダ先住民族観光協会	観光関連組織	・北方圏先住民族 ・複数の先住民族を認定
	・カナダ歴史博物館	施設	
③マオリ (ニュージーランド)	・ニュージーランド政府(観光局) ・ニュージーランドマオリ観光局	観光関連組織	・民族文化の保護と観光振興を両立した好例
	・オークランド博物館	施設	
④ハワイ先住民族 (アメリカ合衆国)	・ハワイ州観光局 ・ハワイ先住民族協会	観光関連組織	・北海道との連携実績あり
	・ビショップミュージアム ・ポリネシアンカルチャーセンター(アミューズメント施設)	施設	
⑤台湾原住民 (台湾)	・台湾観光局	観光関連組織	・多民族 ・北海道との連携実績あり
	・九族文化村(アミューズメント施設) ・順益台湾原住民博物館	施設	
⑥琉球王国(沖縄)	・一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー ・沖縄美ら海財団	観光関連組織	・かつて琉球王国として独自の文化を発展させた。現在は先住民族の認定はないが文化継承・観光振興が盛ん。
	・沖縄県立博物館 ・国営沖縄記念公園 首里城公園	施設	
⑦国内施設事例 (対象民族なし)	・九州国立博物館 ・国営平城宮跡歴史公園	施設	・地域独自の歴史文化を保全

(3) 調査項目の設定と調査方法

表 1-1 の事例について、表 1-2 調査項目に挙げた内容で整理し、先住民族の歴史・文化の展示、体験メニュー、伝統工芸品等の商品、プロモーションなど北海道の地域や拠点施設の訴求力向上のために参考となる要素を検証した。

調査方法は、調査対象の先住民族の関係自治体や関連組織、施設が運営するホームページを中心に情報収集・分析し、着地型ツアーや、土産品についても現地事業者が運営するホームページ等から情報収集・分析を行った。特に海外事例は、日本語サイトだけでなく、英語原文をベースとしたサイトも情報収集を行った。

表 1-2 調査項目

	調査項目	抽出する情報・分析方針	リソース
先住民族文化観光の位置付け	① 先住民族文化の観光資源としての位置付け	● 先住民族の観光プロモーションの取組や、地域の観光資源の中での位置付け、方向性	国・自治体 観光関連機関 Web サイト
	② 商品やガイドへの認定制度等の有無	● 文化保全、伝統文化(模様や文化芸能関係)著作権保護・商品開発におけるブランド化の仕組み	
	③ 先住民族文化関連ツアーや商品の有無とその内容。(内容・価格帯など)	● 周辺の観光資源を含めた着地型ツアーや周遊ルート設定などの特徴、事例	
	④ 伝統工芸品の土産品等商品化	● 伝統工芸品の価格帯や販売方法など	
用光拠点施設の運営としての活観	⑤ 展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫	● ソフト: 関心の層区分に対応したプレゼンテーション・展示手法	施設(博物館など) 公式 Web サイト
	⑥ 体験メニューの有無とその内容	● 体験メニューの種類と価格帯	
	⑦ 多言語整備状況	● 多言語化などの外国人受入れ環境	
	⑧ アクセス条件	● 施設までのアクセス方法、所要時間	
その他	⑨ その他調査研究についての取り組み	● 調査研究(歴史文化保全) ● 関連団体や周辺地域との連携	既存文献など

(4) 調査結果

1). サーミ (フィンランド)

1) -1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

〈サーミとは〉

サーミは、トナカイ遊牧民で北欧スカンジナビア半島の最北部、北緯 66 度 33 分の北極線より北の北極圏中心に分布している北方先住民族。ヨーロッパ連合国内で唯一の先住民族で、9 千人がフィンランドに在住。そのほかノルウェー、スウェーデンの北欧三国とロシアの四ヶ国に居住している。サーミは自分たちの住む地域を Sapmi(サプミ)と呼び、サーミの話す言語は、ヨーロッパ人の中心言語インド・ヨーロッパ語族と異なったウラル語族に属している。

独自の言語、文化、伝統的な生活を維持し、発展させる権利が認められ、サーミ人は主にトナカイの飼育で生計を立てている。サーミの地域は法的に規定され、フィンランド北部の 4 自治体が入っている。

参考: フィンランド外務省東京大使館サイト

<http://www.finland.or.jp/public/default.aspx?nodeid=46043&contentlan=23&culture=ja-JP>

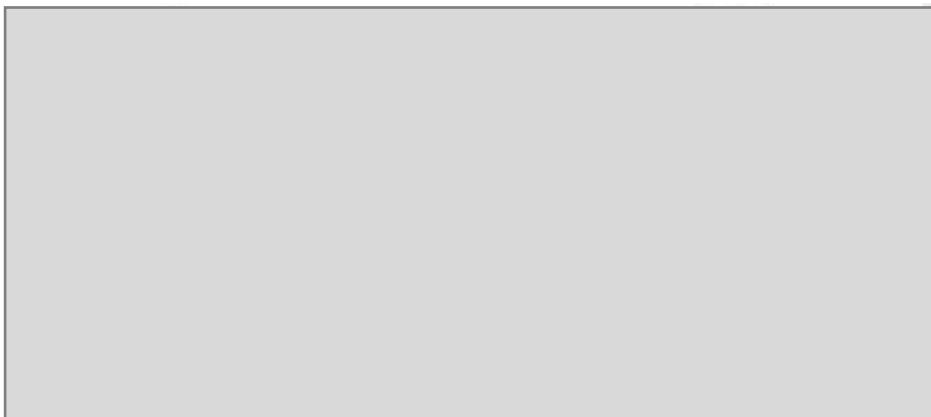
在日スウェーデン大使館公認観光情報サイト <http://letsgo-sweden.com/sami/>)

① サーミ文化の観光資源としての位置付け

〈フィンランド政府観光局 Web サイト〉 (日本語サイト) <https://www.visitfinland.com/ja/culture/>

- トップページ(フィンランド観光)に「サーミ」の伝統文化を前面に押し出すイメージ・デザイン・コンテンツはない。
- フィンランドの観光の特徴として、建築・デザイン・北極圏の自然(森・オーロラ)と自然体験をバランス良く打ち出している。
- サーミ文化については、北部の「ラップランド」地方の特色の一つとして扱われている。ラップランド観光の中心はスキーなどのアウトドアクティビティで、サーミ文化に触れられる地域と紹介されている。
- サーミについては、イナリ・サーリーセルカへの公式ページリンクへ誘導している。
- 観光のカテゴリー「カルチャー」でも、建築や近代デザインなどが主となっており、サーミ文化の紹介はほとんどない。

※英語サイトでも同様



＜イナリ・サーリーセルカ Web サイト＞ <https://www.inarisaariselka.fi/en/activities/>

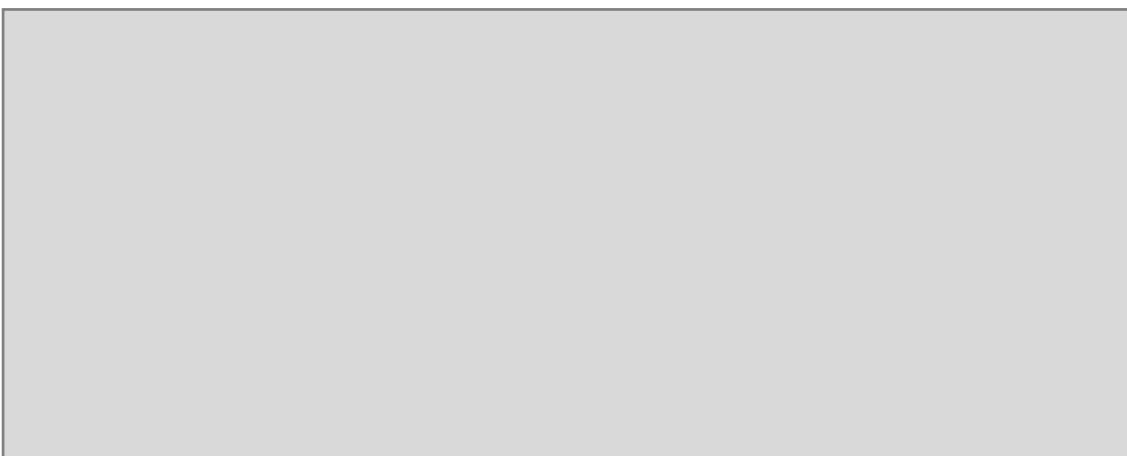
- サーミ文化の中心であるが、オーロラウォッチングや、カヌーなどのアウトドアアクティビティと並んで「サーミ文化」の項目が挙げられている。



②商品やガイドへの認定等の制度の有無

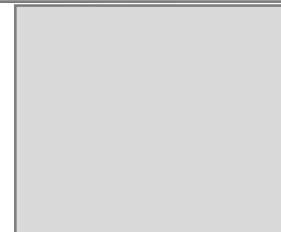
＜サーミ財団 SamiDoudaji＞ <http://www.sameslojdstiftelsen.com/> ※英語含め多言語サイトなし

- サーミ文化(伝統工芸品 Duodji Sámi Duodji)の技術の伝承、販売促進などを担う財団(SamiDoudaji)が設立され若手の育成や伝統工芸品の芸術性を保護・発展させていることでサーミの伝統工芸品の質の低下防止や向上、商品の価値を維持している。



- サーミ人が作成したものであるという保証をするトレードマークがある。
サーミ自治の議会により策定。

Sámi Parliament House <https://www.samiduodji.com/>
<https://www.samediggi.fi/?lang=en>



③先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

＜冬＞

- トナカイ・犬そりでの森散策(3 時間 130 ユーロ(16,190 円)) オーロラツアー(2 時間 110 ユーロ(13,700 円)人) / 氷上釣り
- サーミ伝統食ディナー(サーミの伝統の歌付き・10 名以上・価格不明)

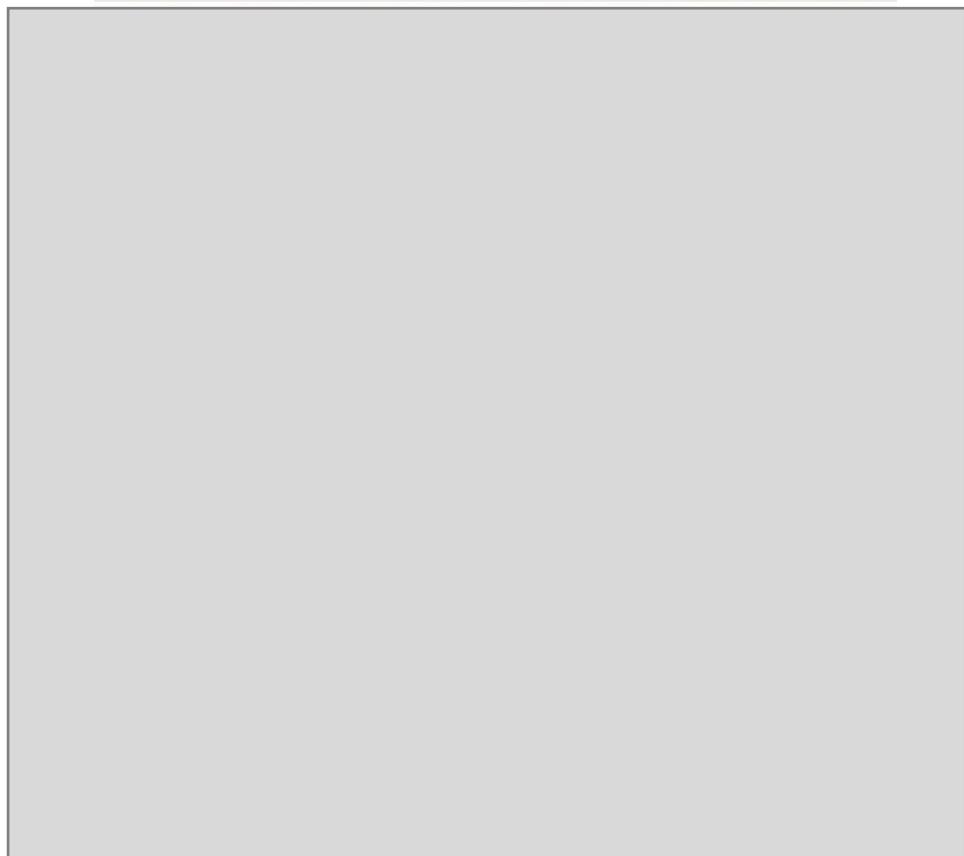
※1ユーロ=¥124.54(2019 年 1 月 25 日現在)で換算

＜夏＞(夏のプログラムのため価格は掲載なし)

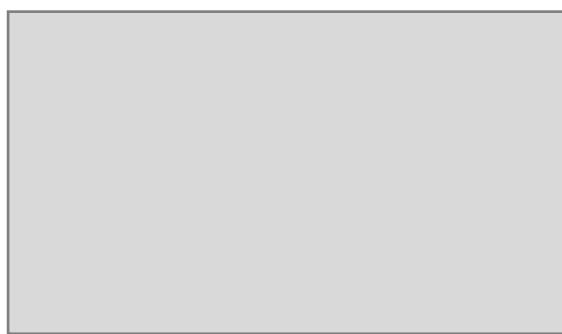
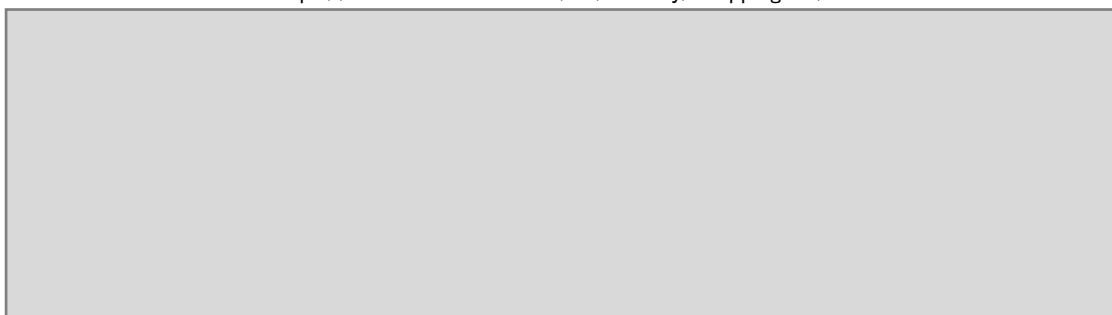
- カヌー/釣り/ティピーキャンプ(1 泊 2 日)/トナカイ牧場でのサーミ文化プログラムと夕食(オーダーメイド)
- 参考: JOIKUN KOTA(ツアー・レストラン観光施設) <http://www.joikukotsamo.fi/jpn/>

④伝統工芸品の土産品等商品化

- 伝統工芸品のショッピング紹介サイトでは、商品の陳列は落ち着いた色調でデザインと比較的価格帯が高めの「本物感」を打ち出した内容となっている。
- 伝統工芸品を購入できる場所として、博物館や産品店、地域内のアウトドア用品店でも手に入ると紹介している。
- 価格帯は幅広く、手軽な土産品から貴金属品もあり、観光客の選択肢は多い。



<https://www.inarisaariselka.fi/en/activity/shopping-en/>



SIIDshop インスタグラムより抜粋

1) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

SIIDA サーミ博物館 (Siida Sami Museum and the Northern Lapland Nature Centre)

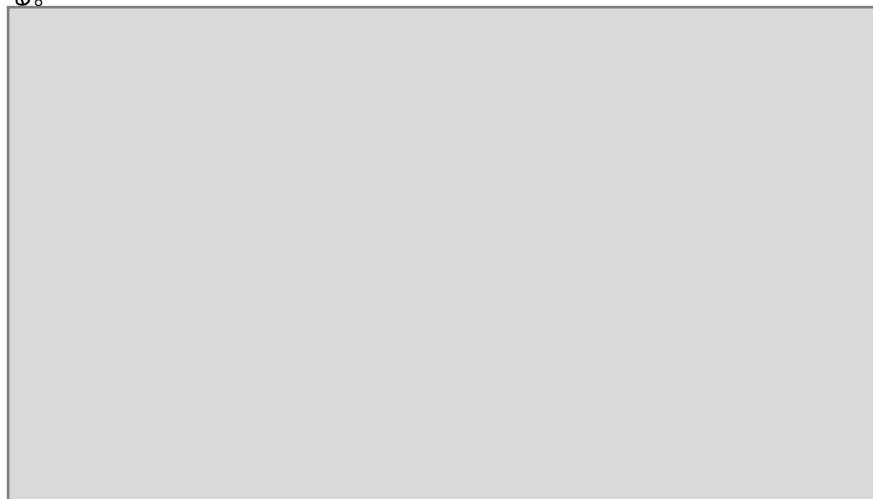
⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜常設展示＞

- サーミ文化の導入部分と自然と文化の調和を理解できるようにデザインしており、写真でラップランドの12か月の自然や太陽の光、天候がサーミ文化の背景にあることが理解できるようにしている。
- サーミの歴史と文化だけではなく、ラップランド地域の自然との融合を目指している。

＜夏季のみの展示＞

- 夏は、オープンエアミュージアムと称して、敷地内の野外展示でサーミが自然とともに生きていることを、狩猟、釣り、住居などで解説している。
- オープンエアミュージアムでは、12箇所にQRコードがあり詳しい解説を、動画や写真で見られるようになっている。



⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜常設展示・オープンエアミュージアム＞

- ガイドツアーを実施。(1時間 13,700円/グループ)

＜テーマツアー＞

- オープンエアミュージアムでの、150年前のトナカイ、牛の牧場の生活体験(釣り)(17,500円/人)
- サーミの言葉、伝統衣装+常設展示ガイド(1時間45分 16,190円/グループ)
- トナカイの毛皮でできたブーツの工場見学と試着ツアー(1時間 13,700円/グループ)
- ラップランド自然ガイド(渡り鳥・熊・トナカイの生態など)(1時間 13,700円/グループ)
- すべてフィンランド語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・英語・(一部)ロシア語での提供

※費用は、1ユーロ=¥124.54(2019年1月25日現在)で換算

⑦多言語整備状況

- ホームページ: 英語・フィンランド語・ノルウェー語・ロシア語
- 展示: 不明
- ガイドツアー: フィンランド語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・英語・(一部)ロシア語での提供

⑧アクセス条件

- 公共交通機関によるアクセスはなく、レンタカー利用が一般的である。
- イナリ村にあるツアーハウス、ホテルから参加できるサーミ博物館訪問を含むツアーハウスを紹介

サーミ文化センター(Sami Cultural Centre Sajos)

<https://www.inarisaariselka.fi/ja/companies/the-sami-cultural-centre-sajos/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

- 近代的なフィンランドの建築デザインと、サーミの伝統文化の両立を目指した建物になっている。
- サーミの伝統衣装・道具を展示する博物館だけではなく、サーミ自治体の議会や会議など自治体の運営拠点である。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜施設ガイドツアー＞

- 展示ガイドとサーミのショートフィルム(15分)あわせて計45分 18,700円/グループ

※費用は、1ユーロ=¥124.54(2019年1月25日現在)で換算

⑧アクセス条件

- グーグルマップでの位置情報のみ。(幹線道路沿い)

1) -3. その他

⑨その他の取り組み

ヨーロッパで唯一の先住民族として認定されており、サーミ自身が自治権をもち、言語・伝統文化を守り伝承することに加え、発展させながらビジネスへの活用を目指している。

また、サーミの生活の基盤を発展させていくための自治を目指している。

2). ファーストネーション・イヌイット・メティス（カナダ）

2)‐1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

＜カナダ先住民族とは＞

●ファーストネーション

カナダでファーストネーション（イヌイット・メティス以外の先住民族）と登録されているのは、現在約 54 万人で、カナダ国民のほぼ 1.8%である。“登録”すると、連邦法によって一定の権利や特典、社会保障などを受けることができ、そのうちの約 55%、605 部族が 2,200 か所以上ある「保留地」と呼ばれる特定地域に住んでいる。保留地の大半は地方にあり、中には全く人の住んでいない場所もある。

（参考：カナダ政府ホームページ

http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/about-a_propos/faq-first_nations-indien.aspx?lang=jpn

●イヌイット

カナダの極北地方に住む先住民族。彼らは 1982 年憲法で、ファースト・ネーションやメティスとともにカナダの先住民族と承認されている。現在の人口は約 5 万人で、そのうちのほぼ 80%がヌナブト準州、ノースウエスト準州、ヌナヴィク（ケベック州極北部）とラブラドルのカナダ極北地域に住んでいる。他の約 20%は、オタワやモントリオール、エドモントンなどに移動し、生活を営んでいる。極北地域に住む人々は現代的な技術や道具を受容しつつも、狩猟や漁労に従事し、独特の世界観を保持している。彼らは滑石彫刻や版画を制作する極北のアーティストとして国際的な評価を得ている。また、イヌイットの伝統文化として氷雪の家イグルーや皮舟のカヤック、防寒具アノラックもよく知られている。（参考：日本カナダ学会 <http://jacs.jp/>）

●メイティ（メティス）

ヨーロッパ人とファーストネーション又はイヌイットとの混血。当初はバッファローの狩猟やハドソン湾会社（Hudson's Bay Company）の雇人として働いていた。1982 年の憲法改正によって、カナダの先住民族の 1 つであることが公認され、1992 年ファーストネーションやイヌイットと共に、先住民族としての自治権の正当性を連邦と州に認められた。（参考：日本カナダ学会 <http://jacs.jp/>）

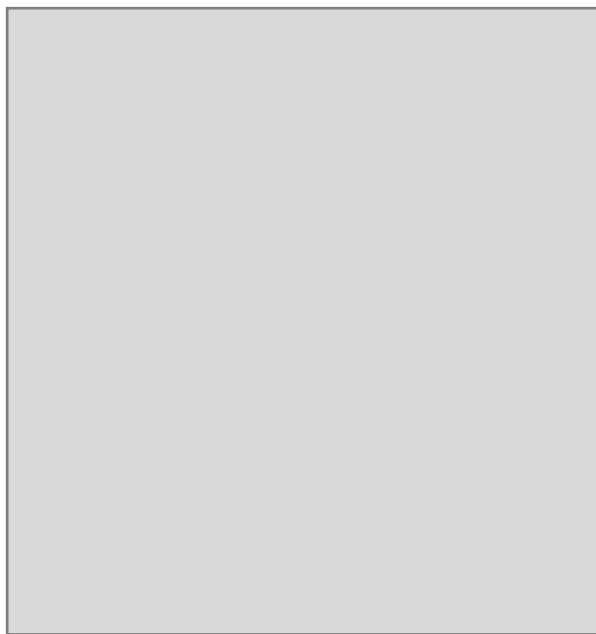
①ファーストネーション・イヌイット・メティスの文化の観光資源としての位置付け

＜カナダ政府観光局 Web サイト（日本語サイト）＞

- トップページから「アクティビティ」メニューの「自然体験」「芸術&文化」などのカテゴリー別に紹介されている。
- 大きく 3 つの先住民族とそれに小さな部族があるが、一つの「先住民族観光」として扱っている。
- 国家的な「先住民族観光」についての計画がまとめられビジネスチャンスとして先住民族のコミュニティの観光分野への振興を支援している。
- 地域によって先住民族の部族・民族が異なるため、それぞれの地域にいる先住民族の特徴を紹介している。（・先住民族 120 万人 ・先住民族言語 50 種類以上 ・先住民族記念国定史跡 115 以上）
- 先住民族の文化体験概要紹介
→各州にある先住民族観光協会へのリンク
　　アルバータ州/オンタリオ州/ケベック州/ヌナブト準州/ブリティッシュ・コロンビア州/マニトバ州
- カナダ観光のなかでも日本人に好まれるテーマを 3 つ提案し具体的な滞在とアクティビティを紹介。
「オーロラ王国カナダ」
「赤毛のアンと世界一美しい島」
「カナダの歴史の謎解く旅」カナダの歴史の中に先住民族の文化体験を含む。

＜日本語以外のサイト 例:イギリス用サイト＞

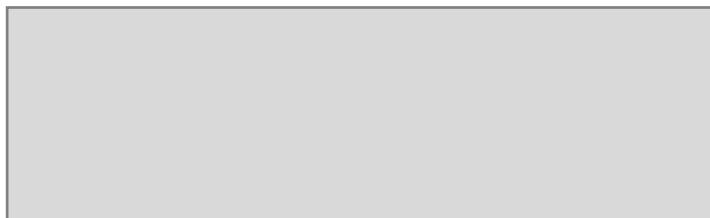
- 対象国によってページの構成を変えている。
- 英国版では、自分の興味対象のカテゴリーをはっきりと選べるようになっている。
- 先住民族の文化体験は「文化」の中に一つのカテゴリーとして取り上げられている。



②商品やガイドへの認定等の制度の有無

＜カナダ先住民族観光協会＞<https://indigenoustourism.ca>

- カナダの先住民族観光を定義し、ファーストネーション、イヌイット、メティスの 3 つの民族を一括して、先住民族による観光産業の確立や先住民族のコミュニティと政府・産業分野のリーダーとの対話・協力の機会を創出している。
- マーケティングなどを含めた観光振興を総合的に進める組織。先住民族の文化、言語、歴史を保護するとともに観光の質を維持、観光による収益を先住民族に還元することを目的としている。
- 会員になると公認ツアーなどのリストに登録されるほか、会員を示すロゴの使用が許可される。
- 事業者会員の基準例: 観光事業の実績と今後の事業計画、コンプライアンス、先住民族が 51%以上出資しているかなど、ほかに 3 つの会員種別があり、先住民族とのパートナー事業や、営業していない団体も登録可能である。



③先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

＜ファーストネーション＞

- Takeya tours (BC ファーストネーションツアー会社)
- <https://takayatours.com/tours/canoe-tours/>
- カヌーツアー: カヤックで先住民族の居住エリアを訪問。歌や先住民族の村や言い伝えなどをガイド。(2 時間 2,880 円/人)
※費用は、1カナダドル=¥82.4(2019 年 1 月 25 日現在)で換算



＜イヌイット＞ヌブト準州 <https://www.nunavuttourism.com/>

2) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

スコーミッシュ・リルワット文化センター(ファーストネーション)<https://slcc.ca/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示＞

- スコーミッシュ族とリルワット族の大胆な芸術作品や美しい文化的工芸品、生活道具を展示し、祖先から語り継がれている伝承を若い人たちに伝え教育するコンセプトとなっている。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜ガイドツアー＞

- グループツアー：歓迎の歌・ショートフィルム・展示ガイド 約1時間 1,480円/人
- ホリスティックツアー+先住民族とのティータイム(歓迎の歌・ショートフィルム・展示ガイド・周辺の森で薬草利用についてのガイドとお茶(約2時間 2,880円/人)

＜ワークショップ＞

- シダー(もみの木)ロープ作り:5歳以上(入館料に含まれている)
- シダー(もみの木)パドルネックレスづくり:15分 1,240円
- 鹿革の薬草入れ作り(45分 1,240カナダドル)ミニチュアハンドドラム作り(45分 1,650円)
- ドリームキャッチャー作り(1時間 1,650円)ハンドドラムづくり(2時間半 16,300円)

※費用は、1カナダドル=¥82.4(2019年1月25日現在)で換算

⑦多言語整備状況

- ホームページ：英語
- 展示：8か国語の展示マップ・パンフレットを用意(言語内容は不明)

⑧アクセス条件

- 自家用車でのアクセス情報
(バンクーバーからの自家用車利用 2時間半 高速道路インターからの目印案内)

ブラックフットクロッシング歴史公園(カナダ先住民族シクシカ族)

<http://www.blackfootcrossing.ca/exhibits.html>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示(施設)の特徴＞

- ブラックフット族の居住地域が世界遺産登録され、その文化についての教育、保護だけでなく娯楽としての機能も併せ持っている。
- 敷地内には、博物館、ティピーテント(ファーストネーションの伝統的移動住居)サイト、草原、川などが含まれ、展示だけでなく先住民族の文化や生活そのものを体験し伝承していくプログラムが実施されている。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜教育旅行向けプログラム＞

- 学年ごとに、ファーストネーションの歴史・文化を敷地内の散策、ワークショップなどの多様なメニューが組まれている。(所要時間・費用不明)
- オプショナルツアーとして、伝統舞踊・ドラム演奏・歌・先住民族の物語を加えることができる。

＜ガイドツアー＞

- 博物館内(indoor)ガイドツアー
- 野外(outdoor)は、敷地内に点在する史跡などをセルフガイドで巡る。

＜ティピー宿泊ツアー(5月～11月)＞

- 敷地内のティピーでの宿泊体験
- ティピー内の薪ストーブの使用・ダンス・ガイドツアー・イベントの参加・キャンプサイトへの入場を含む(2,880 円/人/泊)

※費用は、1カナダドル＝¥82.4(2019年1月25日現在)
で換算

⑦多言語整備状況

- ホームページ: 英語

⑧アクセス条件 ※公園の公式ページにアクセス情報はない

- カナダ政府観光局サイト 車でのアクセス: カルガリーから東へ 1 時間/カルガリー国際空港(YYC)から車で 1 時間半

2) -3. その他

⑨他の取り組み

カナダ先住民族観光協会 <https://indigenoustourism.ca/corporate/>

概要

- 先住民族観光についてのカナダ国内外を対象としたマーケティングリサーチと協会員への情報提供
- 先住民族の観光ビジネスサポート(資金援助含む)
- 認定制度の運営

3). マオリ (ニュージーランド)

3)–1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

＜マオリとは＞

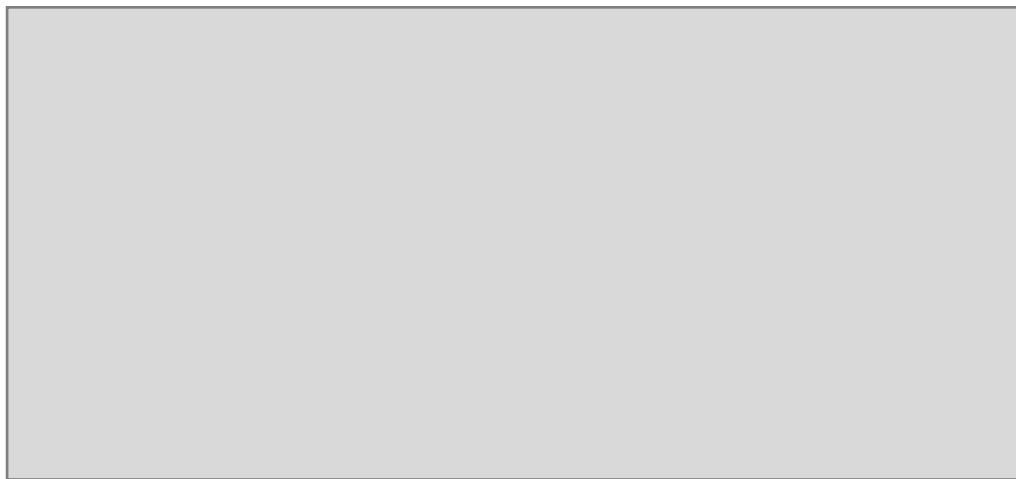
マオリはニュージーランドの「タンガタ・フェヌア」(先住民族)であり、約1000年以前、ポリネシアにあるという伝説の地ハワイキから来たとされている。マオリは全人口の約14%を占めている。

(参考:ニュージーランド政府観光局 <https://www.newzealand.com/jp/>)

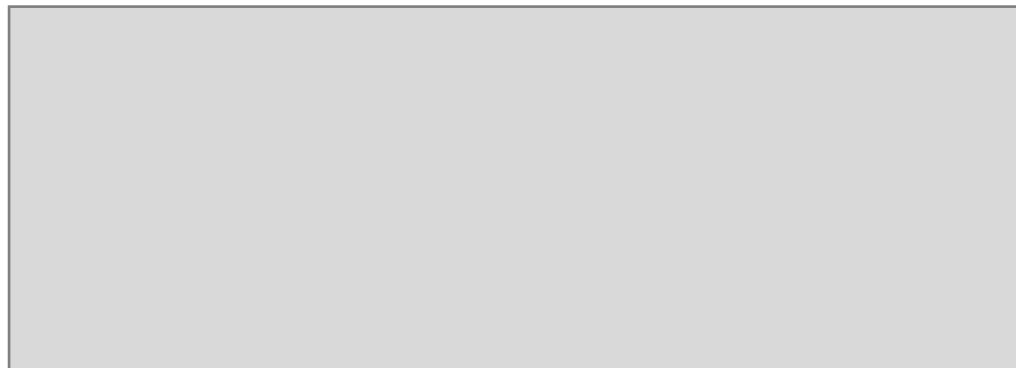
①マオリ文化の観光資源としての位置付け

＜ニュージーランド政府観光局 Web サイト(日本語サイト) <https://www.newzealand.com/jp/>＞

- トップページ(ニュージーランド紹介)では、自然と雄大な風景を重要なアピールポイントとして打ち出しつつ、所々に「マオリ」の単語を使ってニュージーランドらしさを感じさせている。



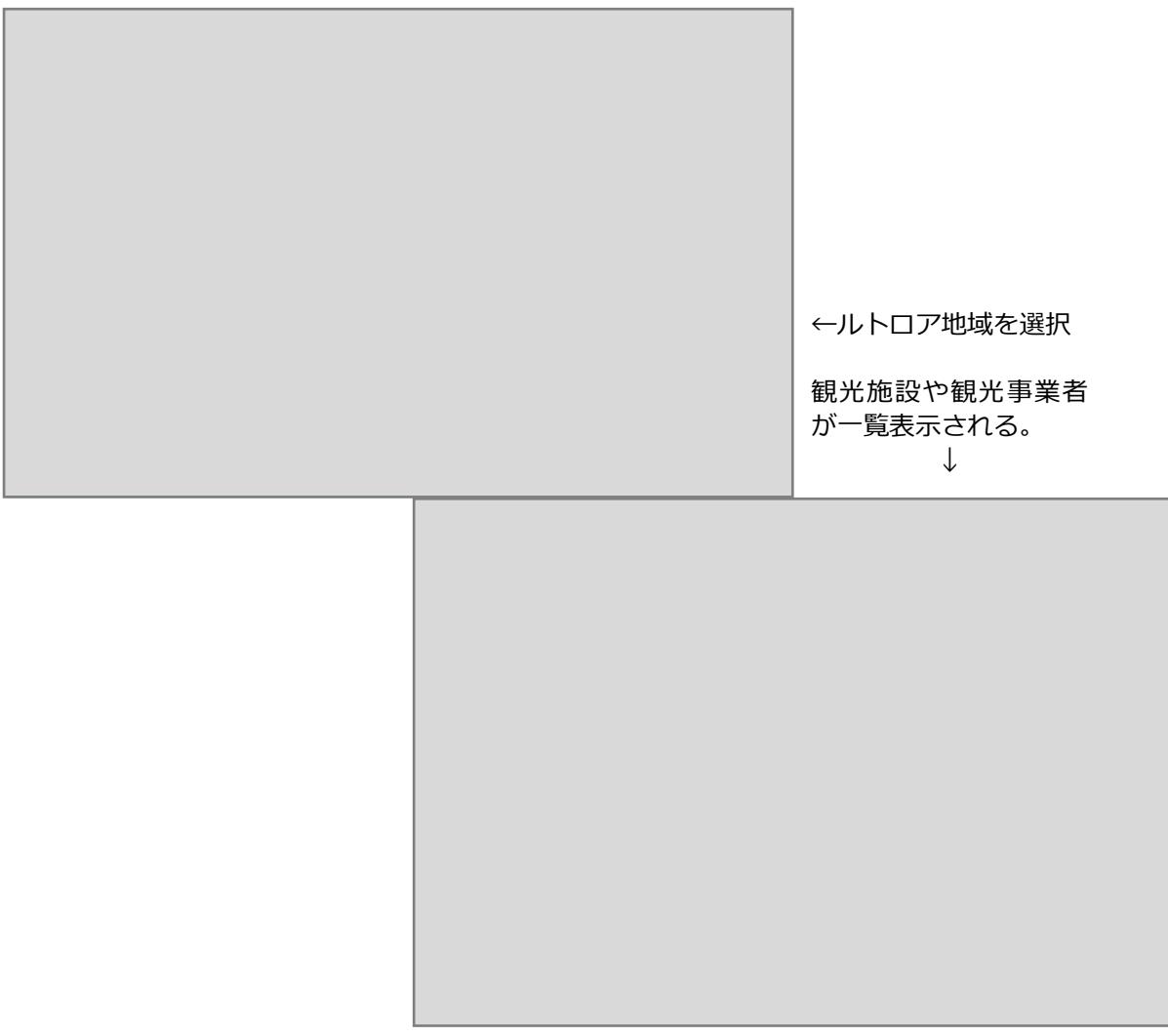
- トップページの最下段で「マオリ語」の挨拶と写真が掲載されている。
- 自然保護局やニュージーランド航空、地方政府、マオリ観光局などが採択したニュージーランド観光の指針「TIAKI」(ニュージーランドを守るために約束事)をトップページで示し、自然保護と文化の尊重を阻害しない観光のあり方を強く打ち出している。(TIAKI 公式サイトへの誘導)



- 観光のアクティビティとして、多種多様なアウトドアアクティビティ、自然・野生動物、グルメ・ワイン、映画ロケ地めぐりなどと並列して「マオリ文化」を紹介し、それぞれの魅力をバランスよく打ち出している。
- 「マオリ」に関連する情報は、「歴史」「アート」「イベント」「ショッピング」など様々な観光のカテゴリーに組み込まれており、観光の一つの柱となっていることが伺われる。
- ウェブサイトは、同一の内容で、20か国語に対応している。

＜ニュージーランドマオリ観光局 Web サイト＞<https://maoritourism.co.nz/>

- マオリの歴史や食、アート、芸能など伝統文化に関するアクティビティを提供する施設やツアーハウスが15 地域別に一覧表示されている。全施設の体験内容が写真でも掲載されており、どこに行けばどのような体験を楽しめるのか、具体的なイメージを得やすい。



- マオリ文化の理解を深めるために、マオリ語の単語やフレーズを使って、マオリの歌、舞踊、楽器、儀式、食べ物、ことわざ、思想などを丁寧に紹介している。
- 主にマオリの貿易や観光の振興に関する事業の相談・支援、マオリ観光の研究を行う機関で、一般的な観光客向けというより事業者向けの Web サイトという色合いが濃い。

②商品やガイドへの認定等の制度の有無

＜ニュージーランド・マオリ美術工芸学校＞<https://www.nzmaci.com/>

- マオリの芸術性豊かな伝統文化を育成し、継承する学習センターとして、ニュージーランド・マオリ美術工芸学校(NZMACI)が設立されている。伝統美術工芸品の再生に向けて、作品のブランド名をテ・プイアと名付けている。(テ・プイアは学校を含むマオリ文化を生で体験できる文化センターのあるエリアの名称もある。)マオリの若者たちが工芸品を制作する過程を見学できる。

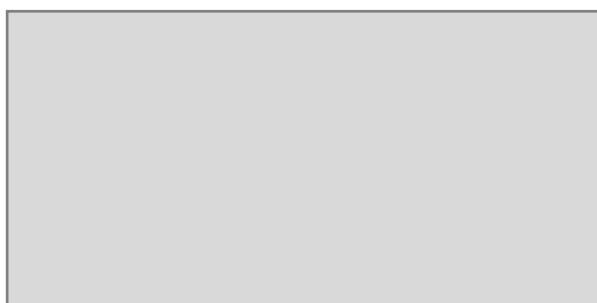
＜TIAKI ニュージーランドを守るための約束事＞

<https://tiakinezealand.com/> ※英語とマオリ語のみ

- 2018年に新たな観光キャンペーンを打ち出し、自然、環境、文化、コミュニティを守ることに賛同し「TIAKI」にコミットメントした人をニュージーランドの守護者(guardian)として歓迎すると呼びかけている。

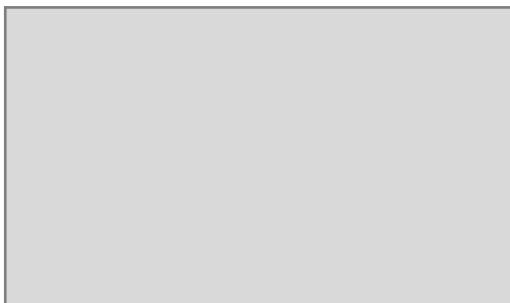
TIAKI ポスター

- ニュージーランド国内で営業する観光関連ビジネスを評価する品質認定の制度を設け、認定を受けた宿泊施設、交通機関、アクティビティやツアーの催行会社には「クオールマーク」が付与される。



③ 先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

- マオリ伝統のカヌーやワカに乗ってナブヒ族の物語を聞きながら川を下る、文化交流とエコ体験を組み合わせたツアー(クオールマーク認定ツアー)大人 10,050 円／子供 7,800 円)
(<http://www.taiamaitours.co.nz/>)



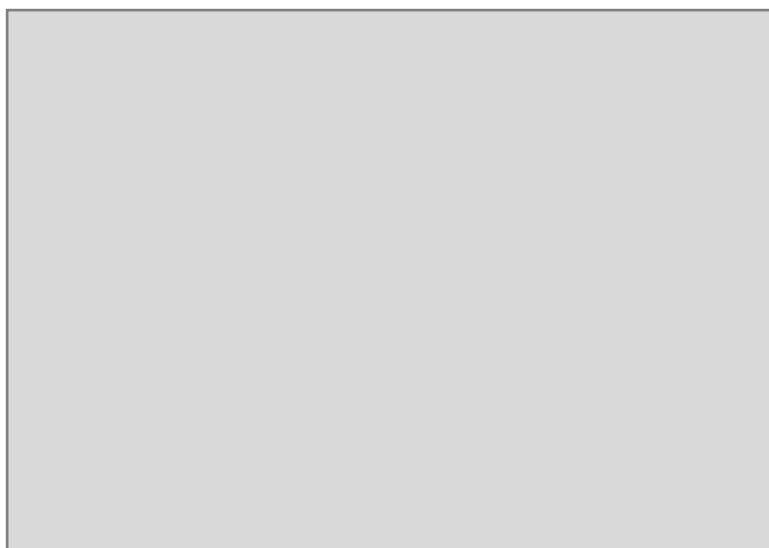
- 地熱活動の盛んな場所で地熱とともに生きるマオリの人々の村ファカレワレワを訪れるガイド付きツアー。マオリ文化を紹介する公演やマオリの編み物、料理も楽しめる。(クオールマークゴールド認定ツアー)大人 3,350～5,200 円／子供 1,490～2,980 円

Whakarewarewa The Living Maori Village (<https://whakarewarewa.com/>)

※費用は、1NZ=¥74.5(2019年1月25日現在)で換算

④ 伝統工芸品の土産品等商品化

- 芸術品や工芸品を揃えているギャラリーや、アクティビティとしての木彫体験などの紹介はあるものの、伝統工芸品を土産品として強く打ち出しているとは感じられない。



- ニュージーランド政府観光局のインスタグラムも、そのほとんどすべてが自然とアクティビティの写真である。

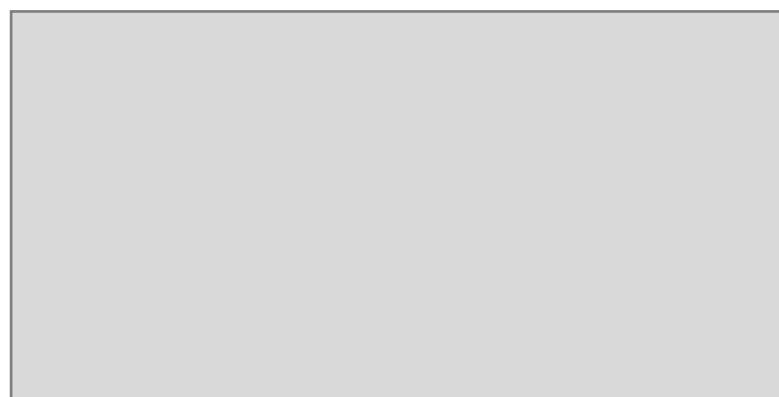
3) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

オークランド博物館(Auckland Museum)

⑤ 展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜常設展示＞

- マオリと太平洋諸島の文化財では世界一の収蔵を誇る博物館で、国内でも有数の歴史的建築物としても知られている。その 1 階がマオリギャラリーとなっており、展示されている彫刻や織物、日用品などのコレクションは 1,000 点を超える。
- ギャラリーには、マオリの繊細な彫刻が施された戦闘用カヌー、建築物(集会所)、ゲートウェイ(門塀)の実物 3 点が展示されている。



集会所の実物展示

- マオリ自然史ギャラリーでは、マオリの生態系へのアプローチや環境に関する豊富な知識を示す展示を通して、自然と文化の間に区別はないというマオリの世界観を力強く表現するものとなっている。
- マオリ文化のパフォーマンスとして、戦いの舞「ハカ」などの伝統舞踊を披露している。

＜特別展示＞

- 年間を通して様々な特別展が開催されている。2018 年には、マオリ王のプライベートコレクションや、ワイタンギ条約(イギリスとマオリの間で締結されたニュージーランド最初の条約)、マオリの土地権利闘争の展示などが開催された。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜常設展示・パフォーマンス＞

- 館内ガイドツアー: 1 日 3 回、所要時間 1 時間 大人 2,980 円／子供 1,490 円／ファミリー 7,450 円
- マオリ文化パフォーマンス: 1 日 3 回、所要時間 30 分 大人 3,350 円／1,490 円／ファミリー 7,450 円
- 館内ガイドツアー+マオリ文化パフォーマンス: 大人 4,090 円／子供 1,860 円／ファミリー 8,190 円
※いずれも入館料を含む。
※子供: 6~14 歳、5 歳以下は無料
※ファミリー: 大人 2 人、子供 4 人まで

マオリ文化パフォーマンス

※費用は、1NZ=¥74.5(2019 年 1 月 25 日現在)で換算

⑦ 多言語整備状況

- ホームページ: 英語・マオリ語
- 博物館マップ: 英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・日本語・中国語・韓国語・ポルトガル語・ロシア語
- ガイド: ホームページにはスタッフがあらゆる言語のニーズにお応えできるとの記載がある。

⑧ アクセス条件

- 市内中心部から徒歩 30 分、車で 10 分
- 公共交通では、観光ルート循環バスと路線バスでアクセスが可能
- 有料駐車場完備
- 電気自動車の充電ステーションあり

3)-3. その他

⑨ その他の取り組み

ニュージーランドマオリ観光局では、マオリ観光に訪れた観光客数の統計、マオリ観光事業の従事者数などについて毎年、年次報告書をまとめている。

4). ハワイ先住民族（アメリカ合衆国）

4)-1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

〈ハワイ先住民族とは〉

ハワイ先住民族は、1500年前にマルケサス諸島のポリネシア人がハワイ島に上陸したことから始まり、のちタヒチからの移住も進み独自の文化が発展した。

1778年のキャプテンクック上陸後は西洋文化を受けながらも、1810年にカメハメハがハワイ諸島全島を統一して一つの王国となった。

1820年にアメリカから宣教師が上陸後、捕鯨船や貿易商も集まる要所となり、米国からの入植者がハワイ経済をほぼ支配すると、1898年にクーデターでハワイ王朝を転覆させ、米国の属領とし、1959年には米国50番目の州とした。

（ハワイ州観光局「ハワイの歴史」 <https://www.gohawaii.jp/hawaiian-culture/history>）より抜粋・要約
現在、ハワイ先住民族の人口は約130万人である。（太平洋の諸島に住む先住民族族含む）。

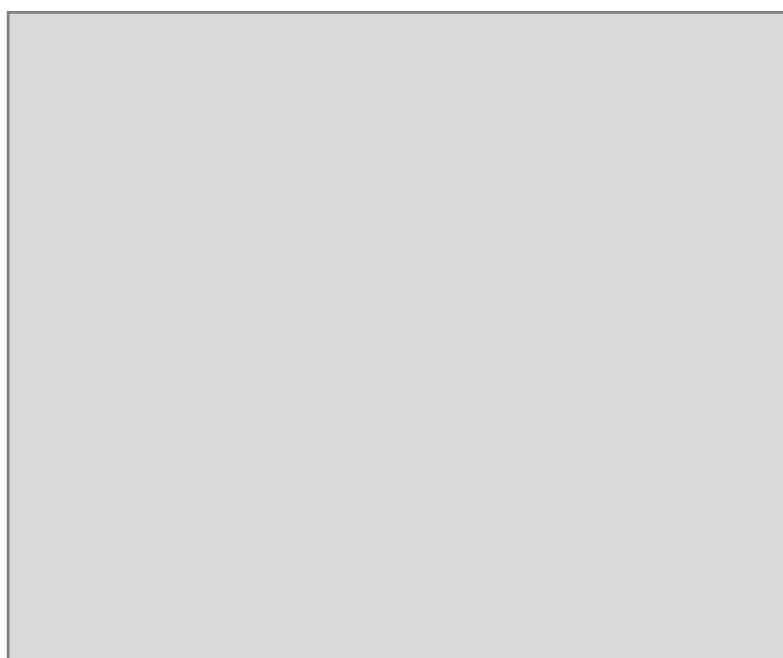
（アメリカ合衆国世論調査人口：

<https://factfinder.census.gov/faces/tableservices/jsf/pages/productview.xhtml?src=bkmk#>）より

①ハワイ先住民族の観光資源としての位置付け

〈ハワイ州政府観光局 Web サイト(日本語サイト)〉

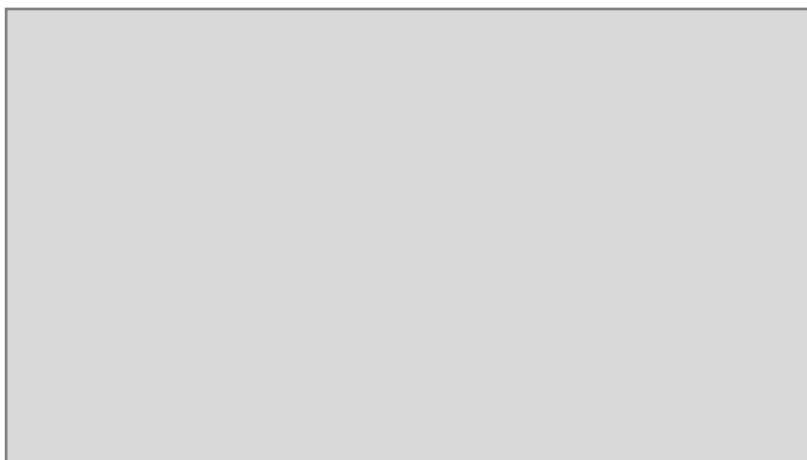
- トップページは、自然の写真とハワイ語「ALOHA」の文字。ハワイで1900年代前半の起源に遡るハワイの象徴「シャカサイン」で、ハワイ独自の文化・環境を印象付けています。
- トップ写真のすぐ下には島のマップが紹介されており、ハワイ観光が浸透している日本向けに、島ごとの特徴で旅行を検討できるようになっています。
- ハワイでの文化的な体験紹介は、伝統的なフラダンスや音楽の鑑賞がメインとなっている。



〈日本語以外のサイト イギリス・スペイン・フランス・オランダ・中国・韓国に共通〉

- トップ写真の構成は変わらないが、写真の下には観光のカテゴリーがハワイ先住民族文化を連想させるアイコンと共に紹介されている。

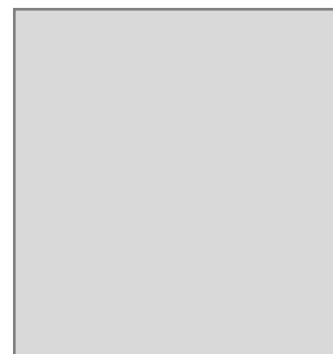
- 「文化・歴史」のカテゴリーが上段中央部に配置され、ハワイの「歴史・文化」が観光客にとって関心の高いカテゴリーと認識されている。



②商品やガイドへの認定等の制度の有無

＜ハワイエコツーリズム協会＞Travel PONO(トラベルポノ) <https://www.hawaiiecotourism.org>

- ハワイの自然環境、歴史文化を観光資源と、地域社会に貢献する持続可能な観光を目指し、物品ではなくツアープログラムに対しての認証制度である。
- Pono の認証を得るには、自然保護、コンプライアンス、ハワイ先住民族の文化や史跡について正確にガイドするためのトレーニングを受けている必要がある。
- ハワイ先住民族の文化・歴史に関するトレーニングは、地域のハワイ先住民族の実践者が主催するものとしている。



③先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

ハワイ先住民族の伝統を観光としたものは、歌や踊りなどの無形文化のショーを見ながら食事をとするツアーがほとんどとなっている。

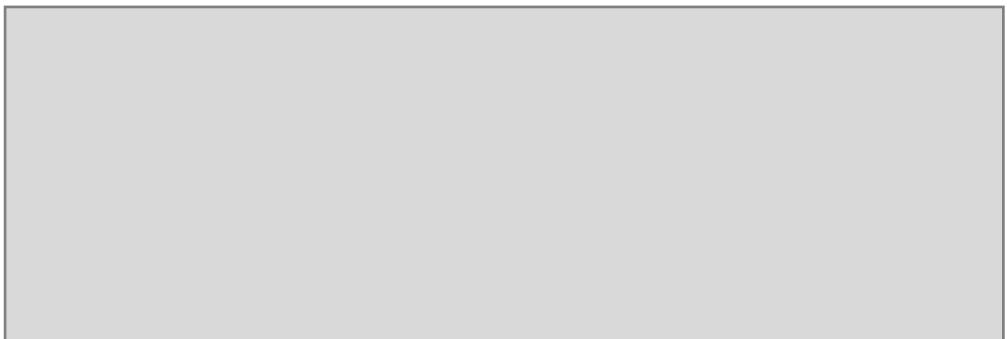
- 「オールド・ラハイナ・ルアウ」: ハワイ伝統料理を食べながら、伝統の歌やダンスを鑑賞（約 2 時間 13,730 円/人）<https://www.oldlahainaluau.com/>
- 「カ・モアナ・ルアウ」: レイ(花輪)での歓迎・レイ作り、フラレッスン、ウクレレレッスンなどが体験でき、ビュッフェスタイルの食事をとりながら音楽とダンスを楽しめる 約 3 時間 13,620 円/人）<https://moanalua.com/>
- 「オアフツアー」: オアフ島の史跡をめぐりながらハワイの文化のガイド。昼食はハワイの伝統料理（約 9 時間/13,180 円/人）

※費用は、1US ドル=¥110(2019 年 1 月 25 日現在)で換算

④伝統工芸品の土産品等商品化

- ハワイ先住民族の伝統工芸品等を見つけるのは難しい。
- 入植したハワイ移民の工芸品(ウクレレ、ハワイアンキルトなど)に、高額で芸術性の高いものがみられる。
- Ni 'ihau Shell Lei(ニアウ・シェル・レイ)は、ニアウ島だけでとれる貝を使ったネックレスやイヤリングで、とても高価なものである。(11,000~3,294,600 円)
- パンダンリーフを利用した籠など安価なものもみられる。

※費用は、1US ドル=¥110(2019 年 1 月 25 日現在)で換算



<https://wanderwisdom.com/travel-destinations/Hawaiian-Gifts-The-16-Best-Things-To-Buy-in-Honolulu>

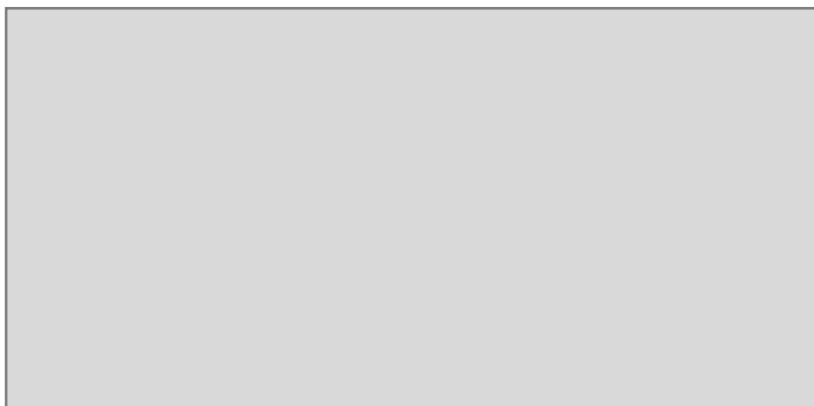
4) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

ビショップ博物館 Bishop <https://www.bishopmuseum.org/japanese-home-page/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

<展示>

- ハワイをはじめ、太平洋諸島文化・歴史に関するコレクションを展示している。
- 3つのテーマ(ハワイアンホール、太平洋ホール、科学的アドベンチャーHawaiian Hall, Pacific Hall, Science Adventure Center)に分けられ、ハワイを中心に太平洋の島々との言語や文化の類似性を理解・感じられるように工夫をしている。1階は生活道具など身近なものを展示し、2階は考古学や人類学、言語学から太平洋の諸島文化がつながっていることを示している。



⑥体験メニュー等の有無とその内容

<教育旅行向け>

- 学年ごとにメニューがあり、先生が用意された解説によりガイドツアーを実施するもの(550円/人)、博物館ツアーと体験プログラムのセット(770円/人または990円/人)がある。
- 博物館での宿泊プログラムがある。(5,490円/人)

<一般向けガイドツアー>

- 展示室のガイドツアー(1時間/1,540円/人)

<ワークショップ>

- フラレッスン(博物館ガイド・フラレッスン)(7,690円~13,730円/人)
- ハワイアンガーデン&クラフトツアー(2時間 5,500円/人)

※費用は、1USドル=¥110(2019年1月25日現在)で換算

⑦多言語整備状況

- ホームページ: 英語・日本語
- ガイド: 英語・日本語

⑧アクセス条件

- 自家用車でのアクセス情報
- マップ掲載 ※2次交通の案内はなし。

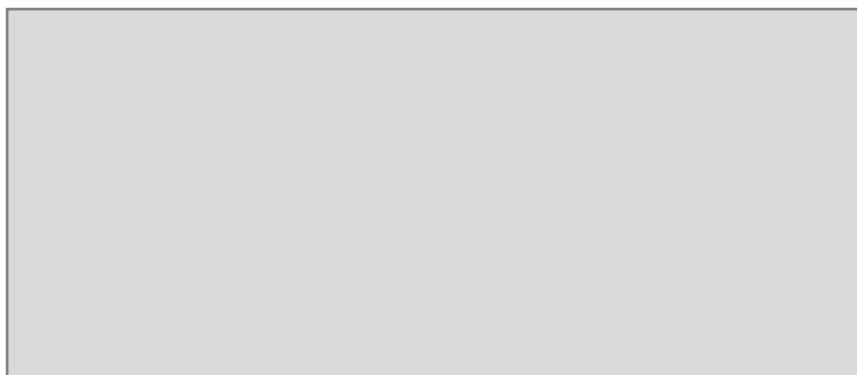
ポリネシアンカルチャーセンター(テーマパーク) <https://www.polynesia.com>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

<展示(施設)の特徴>

- 太平洋の諸島文化をテーマにした、商業的テーマパーク。
- 設立の目的(引用)
「ポリネシアの島々の文化の違い、力強い精神を世界の人々と分かち合うことができるユニークな文化遺産となること。また、末日聖徒イエス・キリスト教会の協力でポリネシア文化を保存、再現すると同時に、隣接するブリガムヤング大学ハワイ校の学生への奨学金、そして仕事の場を与えることを目的に設立されました。」
- 5haの敷地に、ポリネシアンの伝統芸能(ダンスや音楽)のショーを行うステージとレストラン、6つの

文化(ハワイ・トンガ・タヒチ・フィジー・アオテアロア・サモア)のテーマ村で構成されている。



⑥体験メニュー等の有無とその内容

<パッケージ>

- ハワイ村(エリア)の昔のスポーツ体験・網を使わない漁法・ダンスや音楽体験・カヌークルーズ・ビュッフェでの食事・バックステージツアー(入場料 8,790 円～23,600 円/人)
- 施設を出て、オアフ島の観光スポットを回るツアーもある(島の観光スポットめぐり付きチケット 18,400 ～35,000 円/人)

⑦多言語整備状況

- ホームページ: 英語・日本語・韓国語・中国語

⑧アクセス条件

- 送迎バスの運行
- タクシー・レンタカーアクセス案内(レンタカーは駐車料金無料)

※費用は、1USドル=¥110(2019年1月25日現在)で換算

5). 台湾原住民（台湾）

5)–1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

〈台湾原住民とは〉

※台湾の公用言語である台湾国語では、「先住民族」は“既にいなくなってしまった民族”という意味がある。
一方、「原住民族」は“元々居住していた民族”を指し、台湾では差別的な意味を持たず公式的に使用されている。

現在台湾政府が認定している原住民族群は、アミ族・ブヌン族・パイワン族等の計 16 族あり、その総人口は約54万人(2016年6月現在)とされている。過去に平埔族群として分類された族群は、ケタガラン族・タオカス族・バサイ族・パポラ族・猫霧拺族(Babusaga)・洪雅族(Hoanya)・シラヤ族・猴猴族(Qauqaut)などがあり、歴史上漢民族との交流が盛んにあったため部族における伝統的な文化は次第に失った。しかし、最近では多くの部族たちが失った言語や祭儀などの伝統文化の再復興に努めている。将来的には、台湾にはさらに多くの原住民族の部族が認定されていくと考えられている。

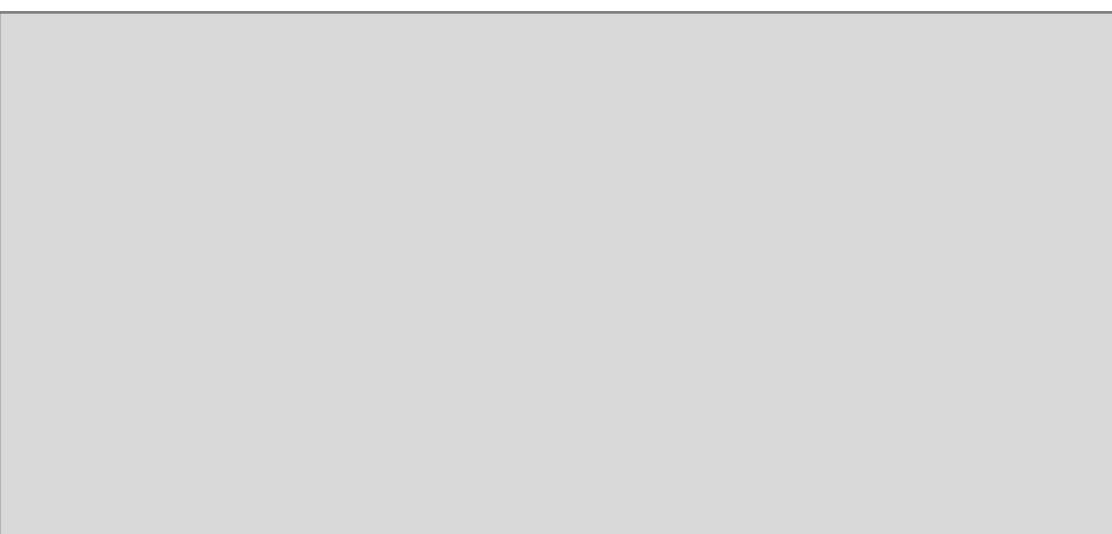
人類学や言語学、考古学などの領域では、台湾原住民は南島語族に属するとされ、南島語族の分布は太平洋やインド洋地区で、東はイースター島、西はアフリカのマダガスカル島、南はニュージーランド、北は台湾までの分布範囲となっている。台湾南島語族の祖先がいつ、何処から台湾へ渡って来たのかは未だにはっきりと解明されていない。台湾南島語はほかの地域の言語よりも複雑であり、台湾は台湾南島語の発祥地であると考えられている。

(参考:順益台灣原住民博物館 http://www.museum.org.tw/symmm_jp/08.htm

①台湾原住民の観光資源としての位置付け

〈台湾観光局 Web サイト(日本語サイト)〉

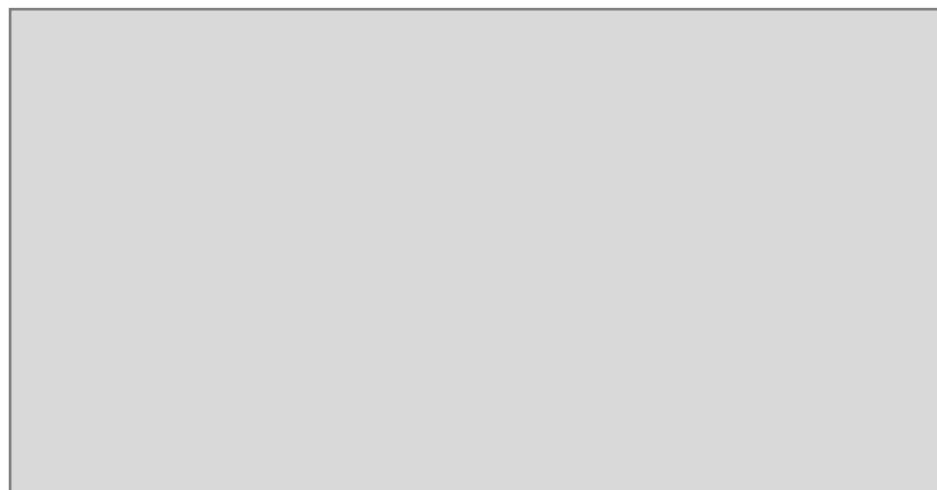
- 台湾を紹介するページで、「人々」カテゴリーの中で、原住民の記述が他国の移民の歴史に並列されているにとどまるが、イメージ写真は原住民の写真を使っており、台湾を特徴づける文化として意識されていることがうかがえる。
- テーマ別の観光紹介では、史跡巡りのカテゴリーを選ぶと、原住民、その他の移民、漢民族の文化がミックスされており、史跡巡りにおいては、「原住民によって残された伝統建築様式や人文史蹟、民俗芸術などの文化遺産」を見ることができる。
- 多民族であるが、それぞれの民族の特徴などの説明はない。
- 原住民のツアーでは、ほかの観光ツアーと違い、事前予約で、ガイドの指示や部族のルールと安全に注意するよう明記されている。



- 原住民をテーマにした観光のサンプルコースが紹介されており、原住民の文化をテーマにしたコースは、「花東原住民文化二日コース」(国立台湾史前文化博物館→卑南文化公園→ブヌン族部落→東部海岸国家風景区→アミ族民族センター)と民族を跨ってのツアー構成になっている。

＜台東観光サイト＞<https://tour.taitung.gov.tw/ja/experience/tribe>

- 台東地域の観光の中では、文化カテゴリーの主要な観光資源として紹介されている。
台北地方には、先住民族観光についての紹介はほとんど見られない。



②商品やガイドへの認定等の制度の有無

特になし

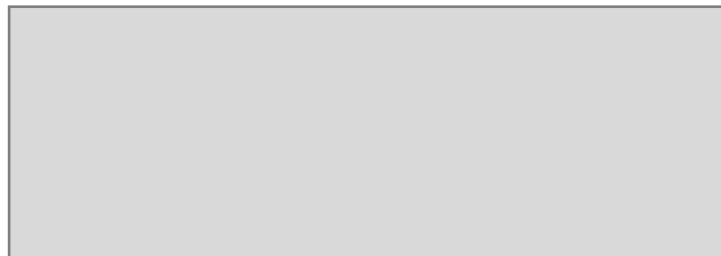
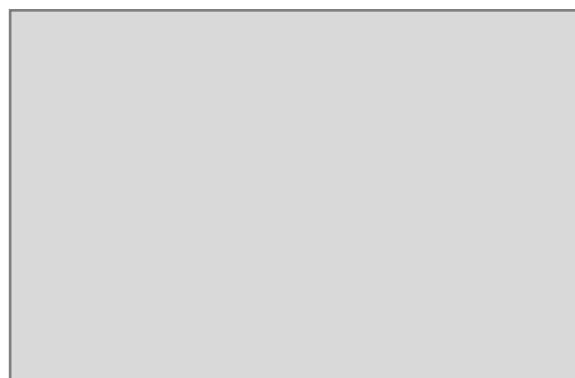
③先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

- 原住民が運営する着地型のツアーは確認できなかった。

④伝統工芸品の土産品等商品化

- 原住民の居住地区の土産品店などのほか、デザイン性を高めた都市部でのショップ、博物館などで購入可能。
- 生活道具を基本に、デザインを現代風にアレンジしたものも作られている。
- 様々な部族の工芸品を扱っていることが多い。

(原住民工芸品専門店:河文 Hbun https://www.facebook.com/pg/hbun4u/photos/?ref=page_internal)



価格帯も様々

5) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

九族文化村 <https://www.nine.com.tw/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示＞

- 台湾の原住民のうち 9 つの部族の伝統文化や生活を体験できる観光施設。
- アトラクションは遊園地の乗り物やヨーロッパの町を再現した施設があるが、台湾最大の野外原住民博物館として、原住民住居エリアには、それぞれの部族の伝統的な家屋が展示しており、生活スタイルを見ることができる。
- 屋内のステージでは、ナルワン族、ブヌン族、サイシヤット族、などの伝統舞踊を見ることができる。



⑥体験メニュー等の有無とその内容

- 敷地内に台湾原住民の伝統的家屋を再現し、生活を展示しているエリアやアミューズメント施設エリアなどがあり、公園内を自由に回り楽しむ。
- ショーとして民族ごとの伝統芸能を公演している。(ショーの見学料金は入場料に含まれている)
- 伝統的な料理が楽しめるレストラン施設がある。

⑦多言語整備状況

- ホームページ:繁体字・簡体字・日本語・英語・インドネシア語・タイ語・マレー語・ベトナム語・韓国語

⑧アクセス条件

- 自家用車でのアクセス情報
- 二次交通:新幹線駅→バス利用

※費用は、1台湾ドル=¥3.6(2019 年 1 月 25 日現在)で換算

順益台湾原住民博物館 http://www.museum.org.tw/symm_jp/index.htm

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示(施設)の特徴＞

- 建物の階によりテーマを変えて展示している。(1F「人と自然環境」・2F「生活と道具」・3F「服飾と文化」・B1F「信仰と祭礼」)
- 冬季には集落文化を軸とした「台湾原住民集落企画展」を原住民の集落と提携して開催しており、集落の方たちが伝えたい事や文化などを盛り込んだ展示内容で、普段触れ合う機会の少ない文化を知ることができる。
- 16 部族の文化を網羅しており、収蔵品はパイワン族494点・タイヤル族184点・ルカイ族138点・プユマ族134点・タオ(ヤミ)族 120点・ツォウ族66点・ブヌン族51点、サイシャット族35点・カヴァラン族12点・平埔族群29点・族別不明のものが152点ある。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜ガイド＞

- 土日限定ガイド:博物館ガイド(各フロアー20 分) (入場料に含む)
- 団体ガイド:博物館ガイド 入場料に含む 535 円/人)
- 学校向けガイド:ガイドのみ 90 分・ガイド+体験メニュー120 分・ガイド+体験メニュー・動画上映 150 分など)

＜体験メニュー＞

- 休日不定期に、台湾原住民の工芸職人を招いての体験会を実施。
- 学校向け:帽子づくり・パイワン族巫師の占い箱・タオ(ヤミ)族のブレスレットなど

⑦多言語整備状況

- ホームページ:英語・日本語・繁体字
- 展示:機材を利用した音声ガイドにより日本語・英語・中国語(貸出料 180 円)
- ガイド:日本語あり(他言語不明)

⑧アクセス条件

- 地下鉄駅よりバス利用
- シャトルバスの運行:火～日 14:00/15:50(1 日 2 回) 国立故宮博物館↔順益台湾原住民博物館
※費用は、1台湾ドル=¥3.6(2019 年 1 月 25 日現在)で換算

5)-3. その他

⑨その他の取り組み

原住民委員会 <https://www.apc.gov.tw/portal/index.html>

台湾政府の原住民を管轄する行政組織。原住民社会の発展のための組織で、教育・文化、健康と福祉、経済、公共的な建築、国土管理の部署を横断する組織構造となっている。

6). 琉球王国（沖縄）

6)-1. 先住民族文化の観光資源としての位置付け

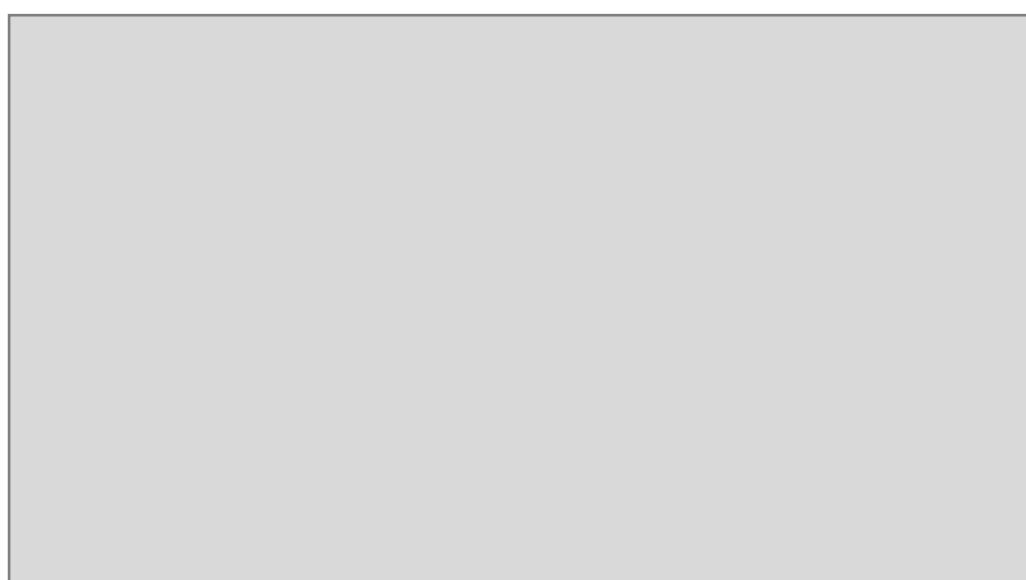
＜琉球王国とは＞

沖縄地方にあった三つの勢力が15世紀に統一（三山統一）され、琉球王国が築かれると、海洋国家として発展し、中国をはじめ、東アジアや東南アジア、朝鮮、日本にいたる周辺諸国と積極的に交易をおこなう「大交易時代」を築いたが、1609年に薩摩藩の武力侵攻を受け、事実上その支配下となつた。その後も日本や中国の文化を吸収しながら、独自の琉球文化を形成していたが、1879年に明治維新の余波を受け、最後の王・尚泰（しようたい）の代に幕を閉じ、沖縄県となった。（参考：沖縄物語（一般社団法人おきなわ物語 <https://www.okinawastory.jp/about/theme/history>）

①琉球王国の観光資源としての位置付け

＜沖縄観光情報 Web サイト＞<https://www.okinawastory.jp/about/>

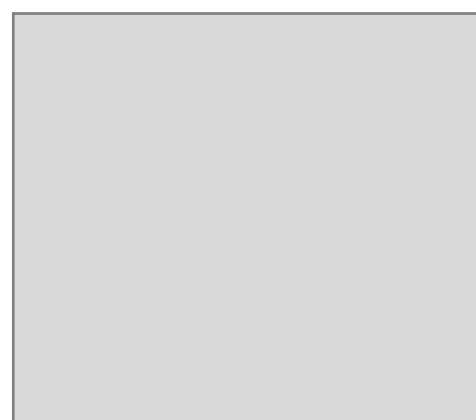
- 沖縄観光の紹介ページでは、「歴史と神話」「伝統工芸」「伝統文化・慣習」「音楽と芸能」の4つのカテゴリーを立ち上げて紹介しており、沖縄観光を特徴づける主要な位置付けであることがわかる。この4つに加え、「グルメ」「アクティビティ」「自然と癒し」が沖縄観光のテーマとなっている。



＜visit Okinawa Japan（多言語観光情報サイト）＞

<https://www.visitokinawa.jp/about-okinawa/traditional-performing-arts>

- 外国人向けサイトでは、「自然」「伝統文化」「食事」「リラクゼーション」が観光の大きなテーマとなっており、「自然」「伝統文化」が沖縄観光の大きな観光の柱となっていることが伺える。
- 世界遺産の首里城、エイサー（伝統的な踊り）が象徴的にピックアップされている。



②商品やガイドへの認定等の制度の有無

＜沖縄食文化保存・普及・継承事業＞

- 沖縄県は「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画（H29-33年度）」を策定し、貴重な文化資源である食文化の保存・普及・継承を通じて沖縄の伝統的な食文化を次世代へ継承するとともに、観光資源と

して活用することを目的に、担い手育成講座を開催した。

- 実務経験年数10年以上の調理師、栄養士を対象に、琉球料理の調理実習と座学からなる講座を開催した。沖縄の伝統的な食文化の担い手を育成、「琉球料理伝承人」として認証。講座の修了者による講座やワークショップを行う。「琉球料理伝承人」リストあり。

③先住民族文化関連ツアー商品の有無とその内容(内容・価格帯など)

<工芸品>

- 沖縄を象徴する伝統工芸品・紅型の染め体験 (1時間 3,240円/人)

<食>

- 豆乳から、湯葉、ゆし豆腐、おからと出来上がっていく工程を体験。昼食付(1時間 3,000円/人)
- 沖縄の一般民家で家庭料理作り講習、家族一緒に食卓を囲んでゆんたく(おしゃべり)を楽しむ(3時間 4,800円/人)

<伝統芸能>

- 三線演奏レッスン(30分 1,000円/人)

参考:現地オプショナルツアー予約専門サイト VELTRA(ベルトラ)

https://www.veltra.com/jp/japan/okinawa/okinawa_main_island/

④伝統工芸品の土産品等商品化

- 沖縄県には、国指定工芸品14品目、県指定工芸品は26品目ある。
- これらの工芸品に沖縄県が検査に合格した工芸品に「証・証紙」を与えていた。

沖縄の工芸品 (沖縄県)<http://okinawakougei.com/>

6) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

首里城公園 <http://oki-park.jp/shurijo/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示＞

- 琉球王国の建築(文化財)が点在する敷地内を見学でき、その中でガイドツアーや儀式、宴などの催しが通年にわたり実施されている。
- 企画展も盛んに実施されており、リピーターも楽しむことができる。
- 入園料 800 円

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜一般向けガイドツアー＞

- 1 日 6 回無料でガイドツアーを実施 (定員 50 名無料)
- トワイライトガイド: 18 時以降 1 日 1 回実施 (期間限定(無料))

＜ワークショップほか＞

- 首里王府時代、首里城で正午及びその前後の時刻を計ったといわれている、日影台(日時計)の説明やガイドを実施 (期間限定(無料))
- 三線体験 (期間限定 30 分(無料))
- 琉球舞踊 (1 日 3 回、毎週 4 日(水・金・土・日)と祝日開催、30 分程度(無料))

⑦多言語整備状況

- ホームページ: 日本語・英語・繁体字・簡体字・韓国語

⑧アクセス条件

- 自家用車でのアクセス情報
- 二次交通: ゆいレール首里駅より徒歩 15 分・もしくは路線バス利用。

沖縄県立博物館・美術館 <https://okimu.jp/>

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示(施設)の特徴＞

- 沖縄の自然、歴史、文化、芸術を同時に楽しめる施設として、博物館と美術館が併設されている。
- 常設展示には、常設展(総合展示)、常設展(部門展示)、屋外展示、ふれあい体験室(無料ゾーン)、移動博物館の 5 つがある。
- 部門展示(自然・考古・美術工芸・歴史・民俗)では、それぞれのテーマに特化した展示をしている。
- ふれあい体験室は、ハンズオン展示資料である体験キットを自由に使って「触れる・見る・聞く」などの五感を働かせる遊びの中から、沖縄の「自然のしきみ」や「先人の知恵」を発見し、学ぶことができる空間として、主に子ども向けの展示を行っている。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜ガイド＞

- ボランティアによるガイドツアー: 博物館常設展示(無料・随時)
- 博物館常設展示解説会: 毎月 1 回学芸員による常設展示の解説(対象幼児～大人 無料)

＜体験メニュー(ふれあい体験室無料エリア)＞

- ハンズオン展示となっており、常設展とリンクした内容になり、ワークシートなどを提供して楽しみながら学べる工夫がされている。
- 「アダン葉サバ」(アダンの葉で作った草履)づくり: 土曜日 2 回開催(45 分 200 円)
- 「Cool GreenU-ji ! ウージ染め色さし体験」(2 時間: コースター 300 円 / 巾着 700 円)

⑦:多言語整備状況

- ホームページ: 日本語・英語・繁体字・簡体字・韓国語

⑧: アクセス条件

- モノレール駅(おもろまち駅)下車徒歩 10 分
- バス利用(空港発/市内路線バス)
- 自家用車(マップコード記載)

7). その他国内事例（日本）

7)–1. 国営平城宮跡歴史公園 <https://www.heijo-park.go.jp/>

＜施設の設置目的・機能＞

国営平城宮跡歴史公園は、国土交通省国営明日香歴史公園事務所が管理する国営公園。

文化伝統の伝承保護や史跡・資料の保護保存と併せて、観光客を含め幅広い対象に向け発信していく拠点施設を目的に、歴史文化を体感体験できる施設としても様々な取り組みを行っている。

施設の基本方針

- ① 特別史跡・世界遺産で歴史・文化資産としての適切な保存・活用
- ② 古代国家の歴史・文化の体感・体験
- ③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり
- ④ 国営公園として利活用性の高い空間形成

導入すべき機能

- ① 歴史・文化体感・体験機能
- ② 歴史・文化交流拠点機能
- ③ 観光ネットワーク拠点機能
- ④ 自然的環境保全・創出機能
- ⑤ レクリエーション機能
- ⑥ 利用サービス機能

国土交通省国営明日香歴史公園事務所 <http://www.kkr.mlit.go.jp/asuka/heijo/about/about.html>

⑤ 展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示(施設)の特徴＞

世界遺産の構成資産である特別史跡平城宮跡の保存と活用を通じ、史跡やコレクションの展示だけでなく効果的に体験や講座を取り入れている。

⑥ 体験メニュー等の有無とその内容

＜ガイド＞

- 平城宮いざない館 団体向けガイド（事前予約）
- 遺構展示館 定点ガイド：第一次大極殿、朱雀門、遺構展示館、東院庭園の定点で案内解説
(無料：ボランティアガイドに希望申し出)
ツアーガイド：平城宮跡内をツアー形式で案内(無料：ボランティアガイド・事前予約制)

＜体験メニュー＞

- 南門復元にかかる各種イベント：木曳祭・手斧始式・宮大工実演などの観覧(無料～500円)
- 3D プリンターで干支づくり(90分・900円・事前予約)(外部講師)
- 竹細工で干支づくり(90分・500円・事前予約)(外部講師)
- 平城京歴史講座「考古資料を展示する－いざない館・平城宮跡資料館での取り組み－」
(500円事前予約制)(講師：奈良文化財研究所 展示企画室 アソシエイトフェロー)
- 「奈良墨」を使ったお習字講座 (75分・1000円・事前予約)(外部講師)

⑦ 多言語整備状況

- ホームページ：日本語・韓国語・繁体字・簡体字・英語

⑧ アクセス条件

- 近鉄大和西大寺駅南口から玉手門経由で徒歩 20 分
- 路線バス「朱雀門ひろば前」
- ぐるっとバス 朱雀門ひろばターミナル着 (運賃 100円で土日祝日を中心に 20 分間隔で運行)

<概要施設の設置目的>

国営吉野ヶ里歴史公園は、特別史跡吉野ヶ里遺跡の保存及び活用を図るため設置された計画面積約 54 ヘクタールの国営公園。吉野ヶ里遺跡の保存を通して、弥生時代を体感できる場を創出し、日本はもとより世界への情報発信の拠点となることを基本理念としている。

<施設の基本方針>

- ① 遺跡の保存と活用
- ② 魅力ある風景環境づくり
- ③ 新しい歴史文化の創造
- ④ 国際交流拠点として
- ⑤ レクリエーション環境の整備
- ⑥ 地域振興の一翼を担う
- ⑦ 段階的な整備の推進

国土交通省九州地方整備局国営海の中道海浜公園事務所歴史公園課 <http://www.qsr.mlit.go.jp/yosino/index.html>

⑤ 展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

<展示(施設)の特徴>

吉野ヶ里遺跡に復元された当時の住居や建物、ムラをとおして、当時の生活文化を見学体験できる施設とその説明を行うガイダンスルーム、環濠集落ゾーンには、遺跡資料の展示や説明を行う博物館機能を持たせた展示室がある。その他に公園遊具やバーベキュー施設などを整備したエリアもあり、幅広い対象が楽しめるようになっている。

⑥ 体験メニュー等の有無とその内容

<ガイド>

- 拠点ガイド: 弥生人に扮したスタッフが、吉野ヶ里遺跡に関するガイドを行なっている
(無料・事前確認)
- 定時ガイド: 東口から園内(遺跡エリア)をまわるガイド(無料・月2回各日2回)
(無料: ボランティアガイドに希望申し出)
- 学校向け団体ガイド: (無料・事前予約制)

<体験メニュー>

- ものづくり体験(勾玉づくり・火おこし・土鈴づくり)(30~2時間・100~200円/人)
- 組みひも・布づくり・楽器制作と演奏・舞踊の稽古 (40~2時間・250円/人)
- 「親魏倭王」印製作・銅鐸づくり(1時間・1000~1500円/人 土日のみ)

⑦ 多言語整備状況

- ホームページ: 日本語・韓国語・繁体字・簡体字・英語
- 展示: 無料音声ガイド: 英語、韓国語、中国語、日本語
有料音声ペンガイド: 英語、韓国語、中国語、日本語

⑧ アクセス条件

- JR 吉野ヶ里公園駅から公園東口(メインゲート) 徒歩約 15 分
または JR 神崎駅から公園西口 徒歩約 14 分
- 路線バス「吉野ヶ里歴史公園前」
- 吉野ヶ里町コミュニティバス(平日のみ)(運賃 100円で土日祝日を中心に 20 分間隔で運行)

7)–3. 九州国立博物館 <https://okimu.jp/>

＜施設の概要＞

東京、奈良、京都に次ぐ4番目の国立博物館として、平成17年に福岡県に開館。

地域とともに共生・共創していく博物館だということを念頭におき、博物館がこの地の新しい文化的景観の形成に寄与できる存在となるよう、広く世界に向けて情報発信することを目的とし、文化財の収集、魅力的な展示、着実な調査研究、国際交流等を通じて博物館の質的な向上を目指している。

地域市民による九州国立博物館を支援する組織が立ち上がっており、博物館でのイベント開催など行っている。一般市民のほか、学校単位での会員募集(キャンパスメンバーズ)・メンバーズプレミアムパスなど独自の会員特典、九博ボランティアなど地域住民と博物館との関係を強化する仕組みを作っている。

⑤展示などのテーマ設定などプレゼンテーションの工夫

＜展示(施設)の特徴＞

- 常設展示を「文化交流展示」と位置づけ、日本文化が外来文化の模倣だけでなく、消化し、蓄積して独自の世界を創造してきた道筋を示すことをコンセプトに、アジアとの文化交流史をワンフロアで展示している。
- 博物館の基本コンセプトである『日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館』に基づき、旧石器時代から近世末期(開国)までの日本の文化の形成を、主としてアジア諸地域との「交流」によって築かれてきた視点から展示している。

＜展示テーマの構成＞

九州国立博物館平常展示「文化交流展示『海の道、アジアの路』」

I テーマ「縄文人、海へ」(3万年前～2500年前)

II テーマ「稲づくりから国づくり」(紀元前5世紀～7世紀前半)

III テーマ「遣唐使の時代」(7世紀後半～11世紀前半)

IV テーマ「アジアの海は日々これ交易」(11世紀後半～16世紀前半)

V テーマ「丸くなった地球 近づく西洋」(16世紀後半～19世紀中頃)

※各大テーマの基本的内容を取り上げた基本展示と、それに関連する歴史事象に焦点をあてた関連展示で構成。時系列で整理されている。

- 子ども向け体験施設として「あじっぱ」を設置。アジア各国の文化を展示、五感で体験比較できる仕掛けを施している。

⑥体験メニュー等の有無とその内容

＜ガイド＞

- 常設展示:学芸員によるミュージアムトーク(月2回・無料)
- 夜のミュージアムトーク:再現文化財(レプリカ)に触れたり、様々な道具での実測を行ったり、プロジェクターでの拡大投影を使った説明(月2回・無料)
- バックヤードツアー:ボランティアガイド(無料・当日受付)

＜体験メニュー(ふれあい体験室無料エリア)＞

- 九博子どもフェスタ:九州国立博物館のボランティアやNPO法人九州国立博物館を愛する会(地域の一般市民)が主催するイベント(鬼瓦づくり・民族衣装着用体験)
- 書初め・ジャンボだるま落としなど(無料・事前申し込み不要)

⑦多言語整備状況

- ホームページ:日本語・英語・韓国語・中国語(簡体字)
- 展示・ガイド:日本語・英語・韓国語・中国語(ボランティアによる)

⑧アクセス条件

- 西鉄太宰府駅より徒歩約10分

（5）先進事例まとめ

国内外の先住民族の伝統文化の観光資源としての活用

5) -1. 先住民族観光の位置付け

①観光振興における先住民族のプロモーション・地域の観光資源の中での位置付けや方向性

＜地域資源の中での位置付け＞

アメリカ（ハワイ）・ニュージーランドでは、先住民族（文化）を地域の象徴として表現し、「国・地域のイメージ」として既に一定以上の認知を得ている。先住民族の文化を地域固有の文化として位置付け、それを前面に出すことで「唯一無二」のデスティネーションとして訴求力を高めることに成功していると考えられる。

北海道におけるアイヌ文化、日本国内他地域、世界各国からの差別化という視点から、アイヌ文化を地域文化の一つとして尊重・伝承しながら北海道のシンボルとして、北海道の観光コンテンツ（自然環境・食）の多様性を補強することができると考えられる。

＜方向性＞

サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス（カナダ）・ハワイ先住民族（アメリカ・ハワイ）・マオリ（ニュージーランド）では、それぞれの先住民族が政府や地域自治体の支援を受けながら、自身の伝統文化の伝承を行い、観光資源としてしっかりマーケティングやブランディングを進めていく基盤を整えている。

台湾の原住民 16 部族は、それぞれが独自の文化を持ちながら、観光産業におけるマーケティングやブランディングはそれぞれの集落が独自に行うのではなく、「先住民族」という枠組みの中で行われている。

② 文化保全、伝統文化（模様や文化芸能関係）著作権保護・商品開発におけるブランド化の仕組み

伝統工芸品が先住民族によってデザインや制作されたものであることを認証する制度を、サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス・（カナダ）、琉球王国（沖縄）で実施している。

また、現地着地型ツアーでは、ツアー運営に先住民族が関わっている割合や、文化伝統の保全、地域の環境に配慮していることなどを認定の基準とした認証制度を、ファーストネーション・イヌイット・メティス（カナダ）、ハワイ先住民族（アメリカ・ハワイ）で実施している。

こうした認証制度は、「先住民族の固有の文化を体験すること」を目的とする観光客にとって、数あるツアーの中から選択する際の基準とされる。価格設定についても有利に働き、ツアーの質を維持し観光客の満足度を高めるためにも有効であると考えられる。

③周辺の観光資源を含めた着地型ツアーや周遊の内容、周遊ルート設定などの特徴、事例

＜周遊ルートの設定＞

カナダは、観光客の出身国によるマーケットニーズを捉え、観光局ホームページで対象マーケットごとに関心層を意識したテーマを定めた周遊ルートの提案を行っている。更に地域ごとに住む部族の特徴と体験可能なアクティビティを踏まえた過ごし方を提案している。

一定数の先住民族文化の関心層が含まれるマーケットに対して、周遊ルートで新たな観光資源として導入することは有効であり、また先住民族文化体験が主な関心となっているマーケットの観光客に対しては、様々な切り口からの周遊を提案することで、地域への訴求力の強化、北海道内への滞在・周遊の観光を計画するのに役立つと考えられる。

アジア圏のようにマスツーリズムが主流でありながら、一定数の先住民族文化への関心層が含まれるマーケットに対しては、親しみやすいストーリーで先住民族文化を紹介することで、新たな観光資源として導入することができる。

また欧米圏のようにFITによる観光旅行が定着しており、先住民族の文化体験を目的としているマーケットについては、様々な切り口（ストーリー）による周遊ルートを提案することで、地域への訴求力の強化、北海道内への滞在型・周遊型の観光を計画するのに役立つと考えられる。

④伝統工芸品の価格帯やイメージ形成など

サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス・（カナダ）、マオリ（NZ）、台湾原住民（台湾）では、安価な土産品としての伝統工芸品から高価な工芸品まで幅広い選択肢を提供している。

特に、工芸品の芸術性や技術の高さをしっかりと伝えること、現代の流行に見合うようデザインをアレンジして、高額でも入手したいと思わせる商品開発とイメージ形成が感じられる。また、認定制度により先住民族による製品を保証することで、その他の商品との違いを可視化している。

5) -2. 拠点施設の運営・観光資源としての活用

①ソフト:関心の層区分に対応したプレゼンテーション・展示手法

サーミ（フィンランド）、九州博物館では、文化を形成する重要な要素である気候や歴史についてストーリー性をもって展示することで、知識のない観光客でもその文化の背景をより理解できるように工夫されている。

②体験メニュー

＜博物館＞

有料ガイドツアーを取り入れている施設が多い。（サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス（カナダ）、ハワイ先住民族（アメリカ））。特に、体験メニューを教育旅行向けに充実している。（サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス（カナダ）、ハワイ先住民族（アメリカ）、台湾原住民（台湾））

無料ガイドツアーには、入館料にガイド料を含んでいるものや、ボランティアガイドツアーもあるが、時間の制限がある。一定の関心を持つ観光客に対しては学芸員による有料ツアーなど、幅広くメニューを持つことが望ましい。

＜アミューズメント施設＞

ハワイ先住民族（アメリカ）、マオリ（ニュージーランド）、台湾原住民（台湾）は、先住民族文化をテーマとしたアミューズメント的な施設が充実している。観光の目玉ともなっており、先住民族文化を観光資源として前面に打ち出し定着している地域において、一般観光客が気軽に伝統文化に触れる機会として受け入れられている。

③多言語化などの外国人受け入れ体制

施設によって多言語化の整備にはばらつきがあり、英語圏では特に多言語に対しての配慮は少ない。

北海道の拠点施設では、多言語化整備を早急に進めるべきと考えられる。

⑤ アクセス条件

サーミ（フィンランド）、ファーストネーション・イヌイット・メティス・（カナダ）、ハワイ先住民族（アメリカ）、マオリ（ニュージーランド）、台湾原住民族（台湾）では、施設のアクセスにはレンタカー利用などを想定しており、1次交通・2次交通によるアクセスができるところは少ない。サーミは、旅行会社のツアーの利用を進めているところもある。関心層ではアクセス条件が訪問の決定を左右することは少ないと考えられ、アクセス条件よりも施設の展示コンセプトなどの特色や体験メニューの充実など、しっかり情報発信することが重要である。

5)-3. その他

⑤調査研究（歴史文化保全）

国営の平城宮跡歴史公園、吉野ヶ里歴史公園では、施設の設置目的・機能において、調査研究施設・文化の保全等とレクリエーション利用や国際交流（観光を含む）利用を明文化している。このような施設の機能を整理しておくことで、文化保全機能を果たしながら、観光利用（産業利用）を両立することへの相互理解が図られると考えられる。

⑥関連団体や周辺地域との連携

国営平城宮跡歴史公園では、周辺地域のボランティアや伝統文化を活動の中心としているNPO団体の活動場所として様々なイベントを敷地内で行っており、観光客にとって様々な体験の機会となり活気を感じられる。九州国立博物館は、地域住民を中心とした「ファンクラブ」を結成し、無料ガイドツアーや安価な子供向けの体験メニューを提供することができている。将来的な活用や、活動の場を見据えた地域の人才培养や団体との連携も視野に入れることが望ましい。